



女子駅伝部

関西学生女子駅伝熱走

女子駅伝部は2023年9月23日(土・祝)に開催された「第33回関西学生対校女子駅伝」(6区間30km・神戸しあわせの村周回コース)に出場しました。

本大会は「第41回全日本大学女子駅伝」の関西地区予選を兼ねた大会です。どのチームも熱いたすきりレーを繰り広げるなか、各校の伝統の意地を見せつけられた大会でした。

私たち女子駅伝部の課題は「個の強さ」にあると考えます。少人数で活動していることから、一人ひとりの良さを最大限に発揮できる環境を作ることが、私たちがさらに上を目指すためには必要です。

来年度に向けて「個の強さ」を強化するために、現在、徹底的に取り組みを変えようと、チームで取り組んでいます。

その一つがランニングフォームの改善です。日々の練習でフォームを意識することによって、集団で同じ練習をしても、効果が違うことを感じています。

また、今回の大会で多くの保護者・卒業生・大学関係者の皆様にサポートしていただき、チームとして新たな目標を立ててスタートできていることに感謝しております。その気持ちを結果で返せるよう、チーム一丸となり、少人数を強みに変えて取り組んでいきたいと考えています。引き続き、応援・ご支援をよろしくお願いたします。

【文・岩本真歩(現代社会学科スポーツ3年)】



夏合宿の様子

2023年の夏合宿は北海道深川市で6日間、起伏のあるコースでスタミナと脚をつくること、チームの団結力を高めることを目的に実施。タイム設定を各自で行うことで、自ら決めた目標を達成しようとする姿勢と自主性を養いました。

また、20km走を全員で励まし合いながら完走。つらいなかでも耐え抜く力がつき、高め合える仲間がいるからこそ成し遂げられることがあると気づけました。

フリーの時間には観光をしたり、美味しいごはんを食べたり、オンとオフを切り替えて前向きに練習に取り組むことができました。

800m・岩本真歩(3年)

自分の今の力を試す思い切ったレースをすることができました。結果は2分25秒70で、西日本インカレのB標準2分25秒00まであと一歩でした。2024年シーズンでは標準記録切りと2分16秒切りを目指します。

1500m・中澤麻友(3年)

予選はイメージ通りの走りでした。決勝はラスト400mでスタミナ不足となり、思うような順位が残せませんでした。目標は1500m日本インカレ標準記録を切ることに。今年こそ目標達成を目指します。

5000m・奥澤虹雨(2年)

3200m以降、ラップペースが落ち始めてしまい、自己記録更新につながりませんでした。根本的にフォームを改善しなければいけないことが分かり、現在、フォーム改善を重視して練習に励んでいます。

Hagoromo オリジナル プロテイン 「meal plus protein」 開発



本学では地域の団体や企業と学生たちが協働でプロジェクトを遂行する「プロジェクト演習」を開講している。2023年前期は、学生自らコンセプトや配合、味を考え、パッケージデザイン・価格を含めた羽衣国際大学オリジナルプロテインを開発した。

「meal plus protein」は女子駅伝部の小谷彩乃(4年)をリーダーとするグループが女性アスリート向けに、朝食が十分に食べられない時に食事にプラスするプロテインとして考案。製品化され、ハルカス学園祭(あべのハルカス近鉄本店開催)にて販売し、大好評だった。

2024年度より、食物栄養学科にスポーツ栄養コースが設置される。スポーツ栄養を学びながら、競技力を向上させる学生に期待したい。

とができました。

深川市の整った環境で質の高い練習を行うことができ、旅館では北海道ならではの新鮮な食材を使ったごはんを作ってくださり、練習の励みになりました。本当に感謝しています。

【文・進藤秋穂(食物栄養学科3年)】

新たなステージへ

辻 和哉(駅伝部監督)

私は常に前向きに、どんな困難も乗り越える気持ちを持つことで結果を出せると信じており、監督として、部員を新たなステージに導くことを目指しています。

昨シーズンは目標に届かなかった部分もありましたが、その課題をしっかりと把握できたことで、次年度には大きな飛躍ができると確信しています。

女子駅伝部の部員は、情熱を持ち、競技や勉学に真剣に取り組んでいます。個々の成長やチームの成功に責任を持って行動しており、困難な状況にも連帯感を持って立ち向かっています。

こうした姿勢は、挑戦を受け入れる勇気や強靱な精神力を培い、失敗や困難を乗り越える強い意志を示しています。

大会成績	
◆第1回学連競技会(8月)	「1500m」奥澤4分46秒58/中澤4分47秒29/進藤4分52秒69/自己新/岩本5分00秒66/河本5分02秒51/木村5分07秒64/小谷彩乃5分11秒68
◆吹田市長距離タイター記録会(9月)	「3000m」中澤10分19秒28/自己新/岩本10分50秒44/木村10分59秒03/河本11分06秒55
◆「5000m」進藤18分18秒90/奥澤18分27秒23/小谷19分13秒45	
◆関西学生対校女子駅伝(6区間30km)	13位 1時間51分43秒
中澤麻友(食物栄養学科3年)	13分46秒04
木村心咲(食物栄養学科2年)	11分35秒03
▽2区(3.3km)	
奥澤虹雨(食物栄養学科2年)	24分22秒04
進藤秋穂(食物栄養学科3年)	24分50秒04
▽5区(3.3km)	
岩本真歩(現代社会学科スポーツ3年)	12分02秒02
▽6区(6.5km)	
小谷彩乃(食物栄養学科4年)	25分08秒03
※区間タイムの後ろの丸中数字は区間順位	
◆ナイターリアルin屋島(10月)	「3000m」木村10分30秒52/岩本10分37秒14/河本11分04秒56
「5000m」中澤17分49秒10/奥澤17分49秒68/進藤18分23秒65	
◆関西学生対校女子駅伝(6区間30km)	「800m」岩本2分25秒70
「1500m」中澤(予選)4分43秒63(決勝)4分51秒85	
「5000m」奥澤18分01秒35	
◆第10回京都陸協記録会(12月)	「3000m」岩本10分42秒07/河本11分01秒48
「5000m」中澤17分38秒84/奥澤17分55秒64/進藤17分56秒90/自己新/木村19分02秒54	
◆全国駅伝中長距離競技会京都大会(12月)	「3000m」岩本10分27秒83/河本10分59秒15/自己新
「5000m」中澤17分28秒19/自己新/奥澤18分17秒91/木村18分51秒80	

味噌づくりにチャレンジ

大阪万博の共創チャレンジに参加している「世界一の食SDGsハブ都市・大阪を目標す会」主催の味噌づくりに参加しました。

味噌はたんぱく質、食物繊維、イソフラボン、大豆サポニンなどを豊富に含み、アミノ酸摂取、健康的な肌の維持、血流改善などに役立ちます。手づくりの味噌を食べられる日が待ち遠しいです。



大阪万博の共創チャレンジに参加している「世界一の食SDGsハブ都市・大阪を目標す会」主催の味噌づくりに参加しました。

味噌はたんぱく質、食物繊維、イソフラボン、大豆サポニンなどを豊富に含み、アミノ酸摂取、健康的な肌の維持、血流改善などに役立ちます。手づくりの味噌を食べられる日が待ち遠しいです。



石垣優星 3年
(大体大浪商高校出身)

打率(・516)、安打数(16安打)、出塁率(・546)の3部門でリーグトップの記録を残し、チームの打線をけん引、本塁打を放つなどの長打力も発揮した。守備では外野フェンスを恐れないうつあるプレーを見せ、全試合に出場する気迫はチームに大きな勇気を与えた。強肩と強打が魅力の伸びしろのある選手である。

石垣が首位打者&ベストナイン

秋季リーグ3部 2位 守備力向上の成果



硬式野球部

【リーグ戦順位推移】		(勝率)	(順位)
2017 秋Ⅲ部	3勝4敗1分	.429	4位
2018 春Ⅲ部	4勝4敗	.500	5位
2018 秋Ⅲ部	4勝5敗	.444	4位
2019 春Ⅲ部	6勝3敗	.677	3位
2019 秋Ⅲ部	3勝4敗2分	.429	4位
2020 春Ⅲ部	【中止】		
2020 秋Ⅲ部	2勝3敗1分	.400	3位
2021 春Ⅲ部	3勝0敗1分	1.00	1位
(公式記録) 入替戦なし			
2021 秋Ⅲ部	6勝2敗	.750	2位
2022 春Ⅲ部	7勝0敗1分	1.00	優勝
入替戦敗退 三部残留			
2022 秋Ⅲ部	4勝3敗1分	.571	3位
2023 春Ⅲ部	2勝5敗1分	.286	4位
2023 秋Ⅲ部	5勝3敗	.625	2位



砂川耀春
(神戸国際大付属高校)



林 大翔
(粉河高校)

リーグ戦評

2023年度近畿学生野球連盟秋季リーグ戦(3部)は開幕から4連勝。好スタートを切ったものの、そこから3連敗を喫した。対戦成績を5勝3敗で終え、あと一步のところまで優勝を逃すという結果になった。

できないと、優勝と昇格の目標は果たせないだろう。来季に向けては、守備力の強化だけではなく、大事なところでの一本が出せなかったため、打撃面の強化も必要である。チームの課題は多いが、秋の敗戦を通してチームはまとまりを見せている。



黒住涼太
(玉野光南高校)



弘田 凛
(高知商業高校)

◆近畿学生野球連盟秋季リーグ戦(Ⅲ部)	
大会成績	羽衣国際大学 4-1 東大阪大
	7-1 奈良大
	10-1 大阪教育大
	2-1 兵庫県立大
	6-7
	11-3
[5勝3敗/2位]	

夏季北海道遠征

硬式野球部(選手29名、顧問2名)は2023年8月5日(土)～12日(土)の1週間、夏の北海道遠征を実施した。北海学園大学、札幌国際大学、札幌大谷大学、稚内大谷高校、旭川市立大学(旧・旭川大学)など、北海道を代表する大学・高校と計6試合を実施した。競技成績のみならず、日常の場面・試合の場面において、目配り・気配り・心配りをしながら、精神面・行動面のレベルを高めようとする努力が見られた。



冬季鳥取合宿

2023年12月9・10日に全部員が参加して鳥取合宿を実施した。野球指導に豊富な実績と経験を持つ指導者を招き、講話を拝聴。学生たちはメモを取るなど熱心に耳を傾けていた。



硬式野球部の指導方針

野球を通じて人間形成を図ります。学生の本分は勉強、学生野球の本分は練習です。公式戦も大切ですが、それよりも大切なのは日々の練習です。

目指すは、

- 礼儀正しい大学野球部
- 文武両道を目指す大学野球部
- 高校より感動できる大学野球部
- 皆から愛される大学野球部

を創ること

総監督 竹之内雅史

神奈川・鎌倉学園高校では、二塁手として春の甲子園大会に出場。日本通運浦和では、外野手として全国優勝に貢献。西鉄ライオンズ、阪神タイガースなどでは、外野手または一塁手として通算216本塁打、15年。阪神タイガースをはじめ、計4球団でコーチおよび二軍監督(計18年)。本学監督を経て、2010年秋に総監督就任。西鉄ライオンズOB会長も務める。

部長 朝西知徳

筑波大学大学院 体育研究科修士(体育心理学)。山梨・日本航空高校コーチを経て、茨城・鹿島学園高校、鳥取・米子商業高校(現・米子松蔭高校)、本学、羽衣学園高校(初代)の4校で監督を歴任。夏の甲子園大会出場1回、中国大会出場6回(最高ベスト4)。監督として通算141勝(公式戦)。昭和から平成、そして令和まで30年以上、学生野球を通じて人間教育を続ける。

監督 伊丹康治

日本体育大学では、正捕手として明治神宮野球大会(3年秋)、全日本大学野球選手権大会(4年春)に出場。和歌山・初芝橋本高校では、コーチとして夏の甲子園大会に出場(のちに監督就任)。本学スカウティングスタッフ・副部長・コーチを経て、2016年秋に監督就任。スポーツ振興課にて強化指定クラブの発展に尽くす。

DC ONLEINE for TEAMを実施

UNIVAS

UNIVAS(一般社団法人大学スポーツ協会)が提供する人間力育成プログラム「DC ONLEINE for TEAM」に、強化クラブ全員が参加した。このプログラムの目的は「大学スポーツに携わる運動部学生における競技力・チーム力向上や運動部の円滑な組織運営を行うための資質・能力の向上」「運動部活動を通じたキャリア形成の理解(キャリア教育の一環)」「運動部学生が在学中やさまざまな社会で活躍するための社会人基礎力向上」であり、講義やグループワークを2時間×3回行った。日ごろ交流の少ない他クラブの学生がともに集まる機会となり、競技に対する気持ちを見つめなおす研修となった。また、硬式野球部は本プログラムを2022年度から継続して受講している。全6回のプログラムを修了した硬式野球部2～3年生に対して、UNIVASより修了証書が手渡された。



女子ソフトボール部

関西学生秋季リーグ

2季ぶり出場

上位校と熱戦、経験積む



秋季リーグ戦評

2023年度秋季関西学生ソフトボールリーグに、大阪公立大学と合同で出場し、結果は2勝6敗で8位でした。勝敗の結果よりも試合内容がすばらしく、2部3位の大阪体育大学に勝利し、4位の立命館大学と5位の天理大学とは粘り強く戦い、敗れたとはいえ延長戦を戦いました。

選手たちは、他大学の選手たちと一つになり、互いに声を掛け合い、1戦1戦を生きていき、元気にプレーしていました。1年生が多いチームなので、リーグの雰囲気を感じてきたことが、なにより収穫でした。また、試合を通じて個々の課題が見えてきて今後の参考になったはず。新入生が入学し、単独チームで出場する来年度の春季リーグでは、さらなる飛躍を期待しています。

個人賞では、高山まりな（1年）が盗塁賞を、チームのベストプレー賞は大江梓月（1年）が受賞しました。引退したにもかかわらず、リーグ戦に出場してくれた4年生にもお礼を言いたいと思います。

監督 岡本耕一

秋季リーグを終えて

主将 菅野 美樹
3年・羽衣学園高出身

新体制になり初めてのリーグ戦、多くの方々の協力のもと出場でき感謝の気持ちでいっぱい。悔しい結果が多かったですが、勝った瞬間、逆転した時はみんなで全力で喜び、ソフトボールの楽しさをより感じられたリーグ戦になりました。春季リーグでは、個人的にも結果を残して、悔いのないように終わられるよう、新入生を含めチーム一丸となって頑張ります！

1年生の感想

石田 凜音
日南学園高出身

初めてのリーグ戦は、たくさんの方々の協力があり、1試合1試合がとても緊張しました。チームを勝たせたい一心で人一倍打ち込みました。その結果、大会期間でクリーンナップとして出場することができました。できていたことができた、なかった場面もありましたが、その度にチームのみんなが声をかけてくれて、改めてチームプレーの大切さを感じることができました。打撃賞が取れなかった悔しさをバネにこれからの練習に励んでいきたいです。

寺崎 夏未
石川県立津幡高出身

大学で初めての公式戦で、

HAGOROMO sports × UNIVAS

UNIVAS AWARDS 2023-2024で優秀賞

2023年度の「UNIVAS AWARDS 2023-2024」表彰において、羽衣国際大学は「人間力を高めるスポーツ学生全員参加型合宿一強化クラブはONE TEAM」がマイナビ賞（人材育成支援に関する優秀取組賞）の優秀賞、硬式野球部の「凡事徹底の大学スポーツ運営～規律を重視した安全管理の徹底～」がMS&AD賞（安全確保に関する優秀取組賞）の優秀賞を受賞した。

この表彰制度は一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）が競技成績のみならず、学業充実や安全安心、大学スポーツの盛り上げ等に著しい成果をあげ、UNIVASの理念の体現に貢献した学生アスリートや指導者、団体らを選定・表彰し、大学スポーツ全体の活性化に繋げることを目的としている。今回、羽衣国際大学は「学生主体の大学スポーツプロモーション活動」でも KDDI賞（大会・プロモーションに関する優秀取組賞）に入賞した。

【強化クラブ方針と人材育成】動画公開

強化クラブの方針「文武不岐の実践により人間力を高める」、育成する人材像「かけがえのない存在として、社会や地域に貢献できる人材」に込めた思いや取り組みを映像にして公開しています。

1話
強化クラブの方針

2話
強化クラブの人材育成

に成長していきます。

秋季リーグを振り返り、勝ち負けでは残念な結果でしたが、1試合1試合を振り返って、個々の良いところ、悪いところが見つかった。良い経験になりました。新チームでの試合が初めてで、試合の流れやチーム力がまだしつかりと分かっていない中、一致団結して声を掛け合いながら、試合を重ねていくうちに自分たちの試合ができたと思います。部員数が少なく、全員が試合に出るうちに体力もつき、連係をしつかりとることができました。秋季リーグで学んだこと、試合をやってみて気づいたことなどを生かして、これからの試合

盗塁賞

高山 まりな
香ヶ丘リベルテ高出身

今回の秋季リーグで課題と目標が明確になりました。初めてのリーグ戦でどの試合もとても競った試合ができたと感じます。最後のひと押しができず負けてしまいましたが、最後の試合まで本気で取り組めたリーグ戦でした。ここぞという時に自分のプレーができず、悔しい結果で終わった試合が多かった。春の大会ではチャンスの場面でチームを活気づけられるようなプレーをし、次は新入生も含めてチーム全員で1試合ずつ勝ち上がっていくように練習していきます。

ベストプレー賞

大江 梓月
金光蔭高出身

今回の秋季リーグでは人数が足りない中、合同チームとして試合に出場しました。その中で試合に出場できることが当たり前ではないということに改めて深く感じました。周りへの感謝を忘れず、またこの冬、春リーグに向けてチーム一丸となりレベルアップします。

【大会成績】

◆関西学生秋季リーグ（女子2部）

●1-7 神戸親和大

●4-5 立命館大（同タイブレーク）

●1-8 龍谷大

○3-1 大阪体育大（同タイブレーク）

●1-2 天理大（8回タイブレーク）

●7-8 びわこ成蹊スポーツ大

●0-4 京都産業大

○12-1 兵庫教育大（4回コールド）

※大阪公立大との合同チームとして出場

HAGOROMO University of International Studies

男子2部

女子1部

2位

バドミントンクラブ

大阪学生選手権大会・団体



女子・2年連続準優勝

3 大学によるリーグとなった女子1部。羽衣国際大学は大阪体育大学に競り勝ち、関西大学に挑んだ。第1ダブルス山口・近藤組はファイナルゲームで勝利、第2ダブルス山川・小川組は敗れ、勝敗の行方はシングルス柏瀬に託された。

柏瀬は第1ゲームを先取したが、チェンジエンドの第2コートはやりにくさもあってか取り返される。ファイナルゲーム前半は優位に進めたが、ホーム体育館で負けられない意地を見せる対戦相手に勢いで押され、残念ながら17本で敗退した。

女子1部優勝のチャンスもあったが惜しくも2年連続の準優勝。チームレベルは安定してきたが、来年は上位大学を追い抜く勝負強さが求められる。

男子・1部昇格へ！

男子は2部で初戦の大阪産業大学にダブルス2つを制して勝利したことが大きく、3戦全勝で2部優勝を果たし、1部との入替戦の権利をつかんだ。

入替戦は大阪成蹊大学との対戦となり、トップダブル



男子ダブルスB部 準優勝 竹内・田村組



女子ダブルスB部 優勝 山川・小川組

関西学生新人ダブルス健闘

女子は山川がコンディショニング不良で、シングルスは力を出せず、残念ながら準決勝で敗れた。「その悔しさをダブルスで晴らそう」と踏ん張る思いが強く、小川とペアを組んだダブルスでは決勝に進出した。

決勝は第1ゲームを惜しくも落としてしまったが、第2ゲームからは相手の得意コースなどを読んで先手を取って優位に進めた。

レシーブの粘り強さも光り、自分たちのペースを緩めることなく、第2・3ゲームを連取して見事優勝を果たした。

男子はダブルスで竹内・田村組が決勝に進出。第1ゲームは快調に攻撃し先制したものの、第2・3ゲームは守勢に立たされた。ペースを取り戻せず、残念ながら1-2で逆転負けを喫したが、準優勝を飾った。

大会成績

○大阪学生選手権大会(団体の部)

▽女子1部 2年連続準優勝
羽衣国際大 2-1 大阪体育大
1-2 関西大

▽男子2部 優勝
羽衣国際大 2-1 大阪産業大
3-0 近畿大
2-1 大阪大

▽1部・2部入替戦 1部昇格
羽衣国際大 2-1 大阪成蹊大

○関西学生新人戦

▽女子ダブルスB部 優勝
山川・小川 21-12 1山名・笹岡
21-15 (龍谷大)

▽男子ダブルスB部 準優勝
竹内・田村 17-21 2多田・長丸
14-21 (天工大)

▽女子シングルスB部 3位
山口 0-2 諸星(龍谷大)

○関西学生秋季リーグ戦

▽女子2部 4位
「Bブロック」
羽衣国際大 3-2 大阪経済大
5-0 大阪産業大
2-3 天理大

「上位リーグ」

羽衣国際大 2-3 武庫川女子大
2-3 園田学園女子大

★近畿2部バドミントン・マガジン賞

▽男子2部 6位
「Bブロック」
羽衣国際大 0-5 神戸学院大
0-5 関西大
1-4 大阪成蹊大

「下位リーグ」

羽衣国際大 3-2 近畿大
3-1 追手門学院大

○西日本学生選手権大会(熊本市)

▽男子団体1回戦 3-1 熊本大
2回戦 0-3 天理大

▽女子団体2回戦 3-0 安田女子大
3回戦 0-3 関西学院大

○全日本学生選手権大会

▽女子ダブルス1回戦
柏瀬・近藤 1-2 比嘉・山元北翔大

西日本学生選手権

2023年9月の西日本学生選手権はインカレ出場につながる重要な大会だった。羽衣国際大学は団体戦で男女とも初戦に勝利したが、2戦目はともに完敗。インカレ出場権は獲得できなかった。

ただ、関西学連推薦により女子ダブルスの柏瀬・近藤組が羽衣国際大学バドミントンクラブとして初めてインカレに出場。1回戦で4年生ペアに善戦したもの、1-2で敗退した。

「インカレ勝利」という歴史はまだ作れなかったが、柏瀬と近藤は1年生。今後につながる有意義な経験になったはずだ。

2023年度強化クラブ大学表彰式

2023年12月3日、文武不岐を全うし、まもなく卒業を迎える強化クラブ所属の4年生に対して「強化クラブ大学表彰式」を行った。中川恵学長より激励賞の授与の後、「在学中に大切にしていた座右の銘、4年間の活動や今後の抱負」について一人ひとりが語った。各人の成長が感じられるスピーチで、教職員一同、学生にとつての4年間の重みを感じた時間となった。

卒業後は、羽衣国際大学の名前を背負い、周りと協調しながら即戦力として活躍してくれるだろう。強化クラブ4年生諸君、4年間、お疲れさま。ありがとう!!



大学表彰式
強化クラブ方針：文武不岐の実績により人間力を高める。

強化クラブ学生広報委員

2023年6月、強化クラブの活動を広く学内外に周知する「強化クラブ学生広報委員会」が発足。試合や練習など各クラブの活動をSNS(インスタグラム)で発信している。

メンバー

【硬式野球部】伊藤嘉英(2年)、尾崎聡馬(2年)

【女子ソフトボール部】石田凜音(1年)

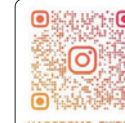
【女子駅伝部】奥澤虹雨(2年)、木村心咲(2年)

【バドミントンクラブ】大城大樹(1年)、中野智保(1年)



HAGOROMO_UNIV

女子ソフトボール部



HAGOROMO_EKIDEN

女子駅伝部



HAGOROMO_BADCLUB

バドミントンクラブ



HAGOROMOKOKUSAI.BBC

硬式野球部